

第4日

平成27年9月4日（金）

午前10時零分開会

○議長（浅尾静二君） 皆さん、おはようございます。

これより本日の会議を開きます。

なお、本日の出席議員は18名で会議は成立いたします。

本日の議事日程については、お手元に配付のとおりであります。御了承願います。

日程に従い、一般質問を行います。

質問通告者及び順位はお手元に配付のとおりであります。

申し合わせにより、1人当たりの質問時間は答弁時間を含めて60分以内となっております。御了承願います。

それでは、最初に4番重松一英議員の質問を許可します。4番重松一英議員。

（4番重松一英君登壇）

○4番（重松一英君） 皆さん、おはようございます。4番議員の重松一英でございます。

きょうは朝早くからお忙しい中、傍聴に来ていただきましてまことにありがとうございます。

台風15号が九州に上陸いたしまして多大な被害を残して去りました。農家の方を初め、被害に遭われました方、心からお見舞いを申し上げます。

以下の質問は質問席より行わせていただきます。よろしくお願いいたします。

（4番重松一英君降壇）

○議長（浅尾静二君） 4番重松一英議員。

○4番（重松一英君） おはようございます。

まず、朝倉市の農林業の振興策はということで質問いたします。

朝倉市の基幹産業は農業であります。農業の振興なくして朝倉市の発展はありません。農業改良普及所や農協、農業振興課が連携して朝倉市の特産品の開発やブランド化、6次産業化を図らなければなりません。林業が衰退していったのは外材の自由化で安い外材がどんどん入ってきて価格が暴落したためです。

今まさにTPPにより農業が林業の二の舞になりかねない状況になってきております。TPPの黒船来航で大波をかぶる可能性があります。

そこで、交渉の成り行きを見ているだけでなく、有効な対策を立てる必要があります。先日、NHKテレビで長崎県島原市の例が紹介してありました。航空会社で旅行のプランなどを作成していた人を島原市で採用して、島原の農作物、果物や野菜を都会のホテルやレストランに紹介してもらい、航空会社での豊富な人脈を利用して売り込みを図り成功している例でした。農家の方も大変喜んであるところが映ってありました。

朝倉市も島原市に議員が担当部署の職員を研修に派遣して、朝倉市でも十分にやっ

けるというのであればぜひ取り入れてもらいたいと思います。質問いたします。

○議長（浅尾静二君） 農業振興課長。

○農業振興課長（仲山茂木君） まず朝倉市の現状を答弁させていただきます。

特産品といたしましては、全国トップブランドであります博多万能ネギとか、あとは富有柿があります。これらは朝倉ブランドとして広く周知をされております。それらに続く特産品といたしましては、イチジクのとよみつひめ、甘柿の秋王等が産地化を目指しております。今やとよみつひめは福岡県内でＪＡ筑前あさくら管内はトップを争う産地になっております。朝倉市は８割弱をそれを占めております。また、米の元気つくしは日本穀物検定協会が実施しております米の食味ランキングで、平成23年度から４年連続で最高評価の特Ａの実績を持っております。

また、加工品開発としましては、市が補助しましたＪＡの１次加工施設や三連水車の里あさくら等で行っております。加工品としましては、ジャム、ドレッシング、柿を使ったお菓子、漬物、三奈木砂糖があります。

６次産業化関連事業で、国から直接採択を受け事業展開されています民間で６社ほどあります。昨年度から朝倉市におきましても普及指導センター、ＪＡ、市の三者で定期的に会議を開催して、新たな特産品の開発などの協議を行っているところでございます。

質問にありました島原市の視察におきましては、まずは先進地視察なんですけれども、まずは朝倉市に合う形で何をどうするのかをある程度具体案を立ててから、それからが必要があれば先進視察も考えられると思っておるところでございます。

以上ですけど。

○議長（浅尾静二君） ４番重松一英議員。

○４番（重松一英君） ありがとうございます。具体的にいろいろ教えていただきましてありがとうございます。またしっかり取り組みをよろしくお願いいたします。

続いて農業関係ですけれども、今、農業の生産組合で法人化へ向けての取り組みがっておりますけれども、市の指導なり方針なり、お伺いしたいと思います。

○議長（浅尾静二君） 農業振興課長。

○農業振興課長（仲山茂木君） 農業の生産組合の法人化の設立の動きについてですけれども、市の現状をまた答弁させていただきます。

平成26年度現在ではありますけれども、農業の生産組合が法人化されたのが約10組織あります。生産組合のままが約15組織あります。今後も引き続き県の指導センター、あるいはＪＡ、あるいは市が一体となって法人化の推進を図っていったところでございます。今後も引き続き図ってまいります。

メリットとして挙げますと、法人化することによるメリットは、国、県の補助が受けやすくなるとか、あるいは利用権設定が可能になりまして農地の集積ができるとか、あるいは新規就農の受け皿になり得る、あるいは融資限度額の拡大が可能になる等のメリットが

あるところでございます。

以上でございます。

○議長（浅尾静二君） 4番重松一英議員。

○4番（重松一英君） ありがとうございます。

次に、再生可能エネルギーの取り組みについてお伺いいたします。

鹿児島県の川内原子力発電所が再稼働を始め、これからも玄海原発や各地の原発も原子力規制委員会の厳しい審査を受けて再稼働の方向に向かおうとしております。

しかし、朝倉市には再生可能エネルギーの資源が眠っています。太陽光エネルギーは買い取り価格が安く抑えられるようになりました。私が提案したいのは、バイオマス発電と小水力発電です。バイオマス発電には朝倉市にある森林の間伐材や木くず、家畜のふん尿を利用できます。

今、山林は荒廃して間伐材は切り倒したままになっております。家畜のふん尿も朝倉市は酪農が盛んですから、これを利用します。バイオガスを発生して発電します。農林業の活性化につながります。森林の再生という大きな目標があります。切り倒されたままの間伐材は燃料として買い取られ、間伐や山の手入れをすることで山林の再生になり、優良な材木が得られます。民間の方でも真剣に木質バイオマス発電の研究をしてあるグループがあり、採算面でも十分にやっていける見通しを立ててあります。林野庁の補助金などもあります。市は補助金を出す必要はなく、市有地を有償で貸していただければありがたいとのことでした。

私が頭に浮かんだのは、寺内ダムの上の畜産団地の跡でした。しかし、私も仲間と一緒に3月に2年にわたって桜の植林に行きましたので、市のほうで何か計画があるのでしたらお伺いしたいと思います。

日田では既に2つのバイオマス発電が稼働しております。日本最大の木質バイオマス発電所は2011年2月に運転を開始した川崎バイオマス発電所で、出力3万3,000キロワットです。家畜ふん尿のバイオマスは南国興産発電設備、宮崎県都城市にあります。1,950キロワットがあります。市で取り組むなり、民間にやってもらうなり、市の協力姿勢は考えられないでしょうか、質問いたします。

○議長（浅尾静二君） 都市建設部長。

○都市建設部長（熊本正博君） 今、議員がおっしゃいました畜産団地にバイオマス発電はできないかという御質問でございますが、残念ながら畜産団地は平成22年度に水源の森整備事業認定を受けて朝倉市が買収をしておりますので、目的外の使用についてはできないものであります。

それから、どういう内容、今さっき言われましたように植樹したとかいうことを言われましたが、内容についてちょっと話させていただきますが、畜産団地は水源の森として整備をし、市民を初め、利水団体やボランティアの協力を得て植樹や育成管理を行い、自然

林に近づけ、水源涵養機能を向上させ、水源地域の環境整備を進めていくものであります。
以上です。

○議長（浅尾静二君） 4番重松一英議員。

○4番（重松一英君） ありがとうございます。この問題はテーマが大き過ぎますので、早急の回答を求めるのは無理でしょうから、折に触れてまた質問させてもらいたいと思います。関係部署は研究、検討をお願いいたします。民間の有識者の意見を聞いてみるのも1つの方法ではないでしょうか。どうぞよろしくお願いいたします。

次の質問に移ります。テレワークの誘致をということで、これもNHKテレビで紹介しておりましたけれども、四国の徳島県の小さな田舎町の美波町が空き家や空き店舗を利用して都会のIT企業を誘致して町も若い人がふえて活気が出てる例を紹介していました。近くでは佐賀県の鳥栖市が取り組んでいるそうです。朝倉市もぜひ取り組んでいただきたいと思っております。質問いたします。

○議長（浅尾静二君） 商工観光課長。

○商工観光課長（石井清治君） まずテレワークという言葉が出ております。皆様方の議員の中、あるいは最近、テレワークの言葉が通ってますが、勤務形態の一種ということで、時間に制約することなくして、働き場所もいろんなところで働きができる、特にこれは通信機器を活用しての働きの形態ということで認識をしております。

徳島県が最近、このテレワークに顕著に取り組んでいると。もともと徳島県については、県自体が約10年間をかけまして20万キロの光ファイバー網を設置されております。美波町の例も挙がりましたが、その前に徳島県ではいろいろな小さな村、町がITに特化して、大都市圏、すなわち東京のほうからのITのクリエイター等を招聘しながら、村、町の活性化に努めると。

こういう状況を実はさらに調べてみますと、自然環境がいいところ、それから家賃が都会に比べて10分の1以下、さらにITの光ファイバーが末端まで張りめぐらされてると。こういうことに対して全国のほうから今、脚光を浴びてると。特にNHKの「クローズアップ現代」でも紹介されたり、あるいは「ガイアの夜明け」でも紹介された例でございました。

それとは別に、鳥栖市の分については、これは総務省の事業に鳥栖市のほうが実証実験ということで取り組まれております。あくまでもこれは山合い、もしくは中山間地ではなくて町の空き店舗を活用したところでのテレワークのやり方ということの実証実験ということで承っております。7月に総務省の採択を受けて10月より稼働していくという話でございますが、もともとこのテレワークのことにつきましては、市として現時点で確かに大きなうねりを持っておりますが、さあ、この場で取り組もうという実は見解まではまだ至っておりません。決してこのテレワークの取り組みを否定するものではございません。中心市街地等にそういうテレワーク、もしくはいろんな働き方を入れながらして空き店舗の

活用ということに対しては、商工観光課のほうでも市街地活性化推進室と協議をしながら空き店舗について一部の補助をするような制度も23年から設けております。実際、今2件ほどの実績も持っております。ですから、今後は空き店舗についてはもとより、テレワークの形態にとらわれることなかれ、いろんな業種についても招聘していくような取り組みについてはアンテナを立てていきたいと思ってるところでございます。

以上です。

○議長（浅尾静二君） 4番重松一英議員。

○4番（重松一英君） ありがとうございます。これからもよろしくお願いいたします。
次の質問に移ります。「市長へのハガキ」についての質問でございます。

私はこれまでに3通、「市長へのハガキ」を出しました。1つ目は、朝農跡地の有効活用について意見を出してくれという時代の話ですけれども、そのときには旧386号沿いに道の駅のような朝倉の農産物の直売所をつくり、その奥にナシ狩り、柿狩り、ブドウ狩り、イチゴ狩り、農作業の体験などできるところを、さらに食品加工場をつくり、朝倉の農業、農産物のPRの発信基地にしたらどうでしょうかというものでした。

2つ目は、西鉄バスセンターの有効活用について、西鉄が競争入札のときの折の話とか、いろいろなことで、朝倉市に対して何か不信感みたいなものを持っているのであれば、市のほうが頭を下げてでも活性化の話し合いに行ってほしいというものでした。

3つ目は、西鉄電車の甘木駅から庄屋町を通して秋月方面へ抜ける旧386号との交差点、福岡中央銀行の前の道路拡幅について、今ある銀行側の歩道も1度同じようなものをつくっておきながら、一、二年のうちに壊してまたつくる、都市計画もあつたでしように、税金の無駄遣いじゃないかというものでした。

3通とも書面による返事はいただきましたが、納得のいくものではありませんでした。この問題を今、蒸し返すつもりはありませんが、私のほかにもいろいろ出てくる意見を真剣に取り上げて検討してほしいと思って質問いたしました。質問します。

○議長（浅尾静二君） 行政情報課長。

○行政情報課長（井上宏一君） 「市長へのハガキ」についてでございますけれども、仕組みといたしましては、御意見や御提案をいただいた段階で集約をいたしまして、政調会議に報告、それから御意見、御提案につきましては各部署で検討を行った後に回答する内容につきまして再度政調会議に諮っております、これにつきましては必ず市長が目を通されるような形になっておるところでございます。

ほかに、この「市長へのハガキ」以外に市民の声を聞く事業といたしまして、市長との懇談会、それから市政の提言メール、その他意見を受け付けることなど、インターネット利用ができる住民、また利用できない住民にも双方から配慮する形で意見、提案を寄せていただけるような形でのいろいろな形での住民の声を聞く取り組みを行っているところでございます。

以上でございます。

○議長（浅尾静二君） 4番重松一英議員。

○4番（重松一英君） ありがとうございました。

次の質問も今の質問にちょっと似通った質問になりますけれども、朝倉市発展を考え、施策実行の応援をする総合戦略本部の創設をお願いしたいということで質問いたします。

人口減少問題、企業誘致、交通網の整備、高齢者や生活弱者に対する福祉対策など、朝倉市のこれからを考え、発展を目指し、市長に提言、諮問し、施策実行の応援をする機関を設置してほしいと思います。

先日の全員協議会で人口減少問題について話し合う特別委員会をつくったらどうかというような市のほうからの提案がされましたが、私はどきっとしました。私が9月の議会で取り上げようとしていたテーマと同じようなものでした。市民会議を庁舎問題に限らず発展させたものでもいい、肩書きなどにとらわれず、民間の優秀な考えを持った人材を集め、意見を求め、それを取り上げていく勇気も大事だと考えます。場合によっては案件次第では市長の強力な応援部隊になると思います。担当部署と市長の考えも後でお伺いしたいと思います。よろしくお願いします。質問します。

○議長（浅尾静二君） 総合政策課長。

○総合政策課長（鶴田 浩君） 民間の能力や知見を活用するということは大切だというふうに考えております。これまでも庁舎基本構想、基本計画、それから地方版総合戦略のための市民会議、これらを初めといたしまして各種審議会や協議会などを発足しているところでございます。

そういう市民会議で大切なこと、私どもが考えておりますのは、会議のテーマや目的に応じまして一定の結論づけをすることが大事だというふうに思っておるところでございます。また、会議で出た結論というものは市としてきちんと尊重していくことが大切だというふうに思っております。

そういうふうにするためには十分な議論というものを踏まえるということが求められます。そういう市民会議等で単なる討論会にしてはならないということを思います。そのためには十分なバックアップ体制を整えた会議の運営が求められるものでございます。そういうことですので、現在は行政課題のテーマごとに市民会議等の設置の必要があるかどうかを検討した上で市民会議等の設置を行っている現状でございます。

今のところ多くの行政課題を網羅して議論をしていただくと、そういった性格の市民会議等の創設については考えていないところでございます。ただし、市民の方の提案やアイデアといいますものはできるだけ広く、多く確保していきたいというふうには考えてるところでございます。

以上です。

○議長（浅尾静二君） 4番重松一英議員。

○4番（重松一英君） 説明ありがとうございました。全般的な内容では市民会議はまだつukらないというような答弁でしたけれども、テーマにつきましては、人口減少問題に限ってのテーマでいいと思います。何で人口減少が起きてるのかということで、いろんな問題がそこに付随して、では、こういう問題はこうしたらいいんじゃないか、こういう問題はこうしたらいいんじゃないかというふうな答えなり、皆さんの考えなりが出てくるのではないかと思いますので、テーマとしては朝倉市に限ったことではありませんけれども、日本全体で起きていることですので、人口減少問題をどう食い止めて発展させていくかというテーマで結構だと思います。その中でいろいろな知恵が出てくると思いますので。そのところでもう1度お願いいたします。

○議長（浅尾静二君） 総合政策課長。

○総合政策課長（鶴田 浩君） 私どもも人口減少に関する問題についてはきちんと対応する必要があると思っておりますが、ただ、この問題につきましては、現在、地方創生、つまり朝倉市の総合戦略をつくるという中で、この人口減少問題について、その対応はどうすればいいかということを検討しているということでございますので、現在の地方版総合戦略策定のための創生会議がそれに該当するものというふうに思います。

○議長（浅尾静二君） 4番重松一英議員。

○4番（重松一英君） ありがとうございます。市のほうの取り組みは一生懸命やっている姿勢も、努力も十分認めております。ただ、民間の中でいろいろな考えを持ってある方、経験を今まで、これまで経験してある方が、優秀な人材がいっぱいいますので、その意見を何とか市政の施策に反映させていけないものかという常々の気持ちがありますものですから、何とかそういうふうなところを考えていただきたいと思います。もう1度よろしいですか。

○議長（浅尾静二君） 総合政策課長。

○総合政策課長（鶴田 浩君） 私ども、民間を含め、行政も含め、優秀な知見を集めるということは大切だというふうに思っておりますので、例えば私どもが十分な検討ではございませんけれども、市の中にシンクタンクを置いてはどうか。例えば民間企業とかではシンクタンクという会社があったりとかしますけれども、市の中で置いてはどうかというようなことを考えたこともございました。ただ、今のところどういった課題について、そういう民間の知見を集めていくかということ、議員もさまざまな行政課題があるということとは御認識でありますので、どの分野についてそういう優秀な知見を集めていこうかというところまではまだ至っていないという現状がございます。

○議長（浅尾静二君） 4番重松一英議員。

○4番（重松一英君） ありがとうございます。

済みません、市長の考えをちょっとお願いいたします。

○議長（浅尾静二君） 市長。

○市長（森田俊介君） 行政をやっていく上で、やっぱり大事なことの1つは、いわゆる市民の皆さん方の意見をどう取り入れていくかということであろうと思います。その点につきましては、いわゆるいろんな幅広い形での意見というものは「市長へのハガキ」とか、先ほど前の質問の中、ああいったもので市としては吸い上げていこう。

そして、今言いました、いわゆるシンクタンクみたいな、市民会議みたいなことにつきましては、ある一定、テーマを絞った中でやっていく。例えば人口減少問題と言いますけれども、実はこれは1つの問題じゃないんです、いろんな形の中で人口減少に歯どめをかけていかなきゃならん。そういう面では、ある意味では先ほど重松議員が言われました網羅的なものに結果としてなるんだろうと思うんです。

ですから、例えば福祉関係だと福祉関係でいろんな審議会がございます。そういったときに、もちろんこれは市民にとって何がいいかということを議論していただくわけでありますけれども、そのことがひいては人口減少に歯どめをかけるという形にもなっていく。そういったそれぞれの市議会なり、市民の皆さん方がそういった問題意識を持ちながら、それぞれのテーマについていろんな意見を出していただくということになるんじゃないかなろうか。

ですから、あえて人口問題ということであれば、先ほど言いましたように、今、総合戦略の中でやってますけれど、あえて網羅したみたいな問題で市民に集まっていたいて、そこでお互いに議論してはいかがか。果たしてそれではなかなか、いいんですけれども、じゃあ具体的な市がやっていく施策にとって、意見を聞いただけならいいんですけれども、じゃあそれを1つの市として施策としてまとめていく場合、非常に難しい問題もございすんで、当面はさっき今、いろんなような形で市としては進めさせていただきたいというふうに考えております。

○議長（浅尾静二君） 4番重松一英議員。

○4番（重松一英君） 丁寧に説明していただきましてありがとうございます。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

以上で4番重松の質問、終わりたいと思います。ありがとうございます。

○議長（浅尾静二君） 4番重松一英議員の質問は終わりました。

10分間休憩いたします。

午前10時29分休憩